

## COVID-19パンデミック2年目の春に思うこと

院長 永野 功

今年も暖冬でした。そのためか病院敷地の桜も3月末には満開という記録的な早さでした。4月に入っても比較的暖かな日々が続いています。今年の2月13日の福島県沖地震で当院は大きな被害を受けたものの、関係者の方々と当院の職員の奮闘努力で診療活動を速やかに再開することができました。また、地震直後から多数の方々より様々なご支援やご寄付をいただいたことは大変有り難くうれしく感じました。現在でも建物にはそこかしこに亀裂があり、給湯や暖房も部分的に故障していますが、関係者および機構本部の支援を受けて修復は着実に進んで行くものと思っています。この場を借りて、ご支援くださった皆様に深謝いたします。

昨今の今頃は、新型コロナウイルスの第1波に見舞われてわが国の患者は増加の一途、米国やヨーロッパの惨状がマスコミを通じて連日報道される中で、社会は重苦しい空気に包まれていました。その状況を踏まえて私は広報みやぎ2020年4月号に「連帯ということ」と題する拙文を書きました。そこで、未知のウイルスに対峙する不安の中でこそ、お互いが連帯して共に生きるという人類の原点に立ち返らなければならないと訴えました。その後感染者は増減を繰り返しながらコロナ禍は続き、現在わが国は第4波の中にいます。とりわけ宮城県は3月下旬から感染者が急増し、非常事態になっています。亶理郡内でも陽性者が出てきており、当院の職員家族が濃厚接触者になるなど、いつ院内感染がおきても不思議ではないほどの緊張感の中にあります。今は昨年よりも感染の危険性、医療体制逼迫の危惧が高いと言えるでしょう。しかしながら、昨今の今頃と比べてわれわれの感じる不安感はむしろ小さくなっているような気がします。これは、この1年間で新型コロナウイルス感染症についてさまざまなことが分かり、未知の脅威ではなくなってきたためではないかと思えます。多くの患者さんの分析から、ウイルス伝播は主に飛沫感染と接触感染であり、マスクと手洗いが効果的であること、発症2-3日前から感染性があり7-10日もすると感染力がなくなることも分かりました。さらに、重症化するの

は発症7-10日後くらいで、ウイルスに反応して起こる過剰な炎症反応によって肺障害が増悪することも明らかになりました。感染確認のためのPCR検査も、外国と比較すると全体の件数はまだ不十分ながら1年前より格段に普及しています。

振り返ってみると、このウイルスのゲノム配列が中国の科学者によって公表されたのが2020年1月11日で、早くも3日後にはドイツからリアルタイムPCR法によるウイルス診断法が発表され、さらに2020年1月31日にはこのウイルスがACE2受容体を介して細胞に侵入することが発見されました。その後、世界で莫大な数の研究が行われ、ついには多種のワクチンの開発に結実、わが国でもワクチン接種がすでに始まっています。昨年にCOVID-19パンデミックが宣言されてから、テレビや雑誌、ネットでは様々な情報が飛び交いましたが、その中におよそ科学的とはいえない情報も多数ありました。医療に携わる者なら人類が生みだした科学の力を信頼し、科学的に現象を評価することこそが、不安をおおるような情報に惑わされずにこのパンデミックに立ち向かう唯一の道であると信じなければならないと思います。



○写真前列左から

宮里看護部長、久永副院長、永野院長、  
安藤特命副院長、若佐事務部長

○写真後列左から

山本経営企画室長、増田管理課長、大坂  
企画課長、西村薬剤部長、小山副看護部長

### 基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

### 行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。



宮城病院公式マスコットキャラクター

「みやべりー」

# 山元町地域包括支援センター 宮城病院内に開設



陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、昨年4月に山元町から山元町地域包括支援センターの業務委託を受け、はや1年が経ちました。前年度は山元町役場庁舎内にて、引継ぎを受けつつ、運営して参りましたが、今年度4月より、宮城病院内へ地域包括支援センター事務所を移転いたしました。  
皆様におかれましては、通いなれた山元町役場庁舎から移転したことでご不便をおかけいたします。  
私たち地域包括支援センターは、より深く地域に根差し総合的な相談・支援の窓口として、各関係機関と連携し地域のみなさまの生活を支えていくよう努めてまいります。  
今後ともよろしく願いいたします。

(山元町地域包括支援センター 管理者 佐藤 かおり)

## 新型コロナウイルス感染対策川柳

昨年1月に新型コロナウイルス感染者が国内で発表されてから、1年以上が経過し、現在も全国各地で感染者数の増加や変異株ウイルスによる感染拡大など収まる気配がありません。

当院では、院内感染防止対策の徹底を図りながら、面会禁止や体温測定による発熱チェックを正面玄関入口で実施しております。

そんな状況の中でも、更なる感染防止対策に取り組む必要があると考え、院内職員に向けて「新型コロナウイルス感染対策川柳」の募集を行いました。

年末年始にかけて、記念品（感染対策グッズ）付で募集を行ったところ、院内から12組、計61作品も応募が寄せられました。中には1人で19作品も応募いただいた方や世情を反映させたユニークな作品も数多く、コロナ禍ならではの力作が揃いました。

病院幹部の審査により、最優秀賞と優秀賞（3作品）を決定いたしました。

(企画課長 大坂 雄二)

### 作品のご紹介

最優秀賞



お日頃  
手洗いうがい  
思いやり  
作者 岡上のサンタ

優秀賞 3作品

寒くても  
換気が大事  
コロナには  
作者 すずのすけ

意味がない  
鼻だしマスク  
顎マスク  
作者 ひなたづき/おアトレー・むいみ

離れても  
心寄り添う  
ディスタンス  
作者 三密同心

# QCサークル活動発表会

令和3年2月10日(水)宮城病院QCサークル活動発表会が行われました。今年度はコロナ禍の影響で規模を縮小しての開催となりましたが、8サークルから発表があり、各職場で取り組んだ成果が発表されました。

当院のQC活動は今年で13年目を迎え、QC手法の活用や発表は年々レベルアップしております。その中でも入賞された3サークルは、QC活動の過程は勿論のこと、PDCAサイクルもしっかりしており素晴らしい内容のQC活動でした。

また、惜しくも入賞を逃したサークルも、いかに業務の質や病院の経営を良くするか、様々な観点からの取り組みと工夫がなされていた活動でした。

最後に、今回発表されたサークルにおかれましては、コロナ禍の影響で業務多忙の中、QC活動に取り組んでいただき大変ありがとうございました。次年度もさらにレベルアップした活動を期待しております。

(庶務班長 小川 哲)



## 1位 中央病棟1階

サークル名：憧れのNY(入浴)で炎上(援助)！？

テーマ名：入浴介助を安全・安楽かつ効率的に行うために

## 2位 中央病棟3階

サークル名：全集中！看護業務可視化の呼吸！中央3の型

テーマ名：看護業務の見える化～業務改善に向けた第一歩～

## 3位 診療放射線科

サークル名：ラジエーションハウス

テーマ名：その検査取れてますか～Second Scan～

## 訪問リハビリ開始から1年経過して



訪問リハビリ担当の方々

令和2年4月より、「訪問看護ステーションかけはし」から訪問リハビリを開始してから、お陰様で順調に1年経過致しました。開始当初は利用者様5名、のべ月25件の利用者数から開始となり、その後様々な事業所様からのご紹介をさずかり、令和3年3月末現在で、利用者様20名、のべ月128件の利用者数にご利用いただけるまでに成長させて頂きました。

1年間実際に訪問リハに関わってきた経験から、全身の状態や日常生活、ご家族の健康状況などを確認し、サービス提供者と情報共有を行い、利用者様らしく安全安楽に生活できる一助になることが出来、安心した顔が拝見できれば、我々も存在意義を感じております。今後とも、皆様のご利用をお待ちしております。

(運動療法主任 澤地 浩二)

## オンライン面会について

昨年9月の新型コロナウイルス感染拡大に伴い全面禁止となっていた入院患者様の面会ですが、3月22日から全病棟において、『オンライン面会』という形で再開することになりました

Skypeという通話アプリを利用し、ご家族の端末から面会する方法と病院で用意したタブレットを使用して病院内から面会する2つの方法でご利用いただけます。

多くのご家族にご利用いただくため10分という短い面会時間ではありますが、数か月ぶりに患者様と面会されたご家族はタブレット越しに何度も声を掛けられ、患者様との再会を喜ばれていました。また、タブレットに映るご家族の顔を見て涙を流される患者様もおられ、ご家族に会えなかった時間の長さを感じさせられる一場面もありました。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が報じられる中、面会禁止の解除の見通しはまだたっておりませんが、可能な限り、患者様とご家族のお気持ちに寄り添う医療サービスの提供を目指してまいります。

(管理課長 増田 和美)

# 新型コロナウイルスワクチン接種開始



新型コロナウイルスのワクチンについては、連日ニュースや新聞で報じられているところですが、当院においてもこの4月19日から亙理郡内の医療従事者や行政関係者を対象としたワクチン接種が始まりました。

当院はワクチンの取り扱いに係る亙理郡の基幹施設として、亙理郡内のワクチンの保管と配送を管理する役割を担っています。マイナス7.5度という適正な環境下での保管管理が必要ですが、当院に設置されている非常用電源（自家用発電設備）により、停電時でも電気が供給され、適正な温度を維持することができます。

5月中旬には2回目のワクチン接種が終了する予定となっており、新型コロナウイルスに対する感染防止対策が進められています。

最初にワクチン接種を行った永野院長

(管理課長 増田 和美)

## 2.13 福島県沖地震の復旧状況について

令和3年2月13日、午後11時過ぎに福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、山元町では震度5弱が観測されました。

地震発生直後より、外来管理棟の診察室やX線撮影室など至る所で、配管設備が破損し、水浸しとなった医療機器や電子カルテ端末の動作確認、院内清掃作業を夜間集まった職員で行いました。

結果的には、建物損壊や断水の影響もあり、外来診療が1週間休診になりました。断水については、山元町から給水車の手配を受け、食事や生活用水を確保しました。その間、関係事業者の皆様や医療関係機関、行政関係者から多くのご支援をいただき、予定通り外来診療を再開することができました。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

現在も、救急外来など外来管理棟の一部は使用不能となっておりますが、復旧に向けて対応をしていきたいと思っております。

(企画課長 大坂 雄二)

### 2月13日福島県沖地震発生以降 ご寄附いただいた方々

独立行政法人国立病院機構宮城病院へご寄附いただきましてありがとうございました。

※お名前の公表が可能な方を、五十音順に掲載しております。

※掲載させていただいた方以外にも多数の方々からご寄附いただきました。

重ねてお礼申し上げます。

犬飼 博信 様  
梅田 尚 様  
金子 仁彦 様  
鈴木 喜智 様  
村山 麻子 様  
やまもと薬局 様  
その他多数の方

寄附受領総件数 計 26名  
寄附受領総金額 計 1,645,000円



心よりお礼申し上げます

# 創立80周年記念樹 紅白の梅満開



初春の訪れを知らせる「紅白の梅」が満開となりました。  
 この梅は、令和元年10月に宮城病院創立80周年記念行事として正面玄関前に植樹されたものです。  
 創立80周年の記念式典は、台風19号の影響により中止となってしまいましたが、植樹から1年以上が経過して苗木も順調に成長し、紅白のきれいな梅の花が咲きました。職員に改めて喜びを感じさせてくれるかのように咲き誇っています。

(企画課長 大坂 雄二)

## 連携室から

今回は、障がい者手帳についてお話させていただきます。障がい者とは、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者(発達障がい者を含む)としていますが、手帳制度はそれぞれの法律により別々に定められ、障がいに応じて身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳があります。対象や等級は以下の通りです。

内容	身体障がい者手帳	療育手帳	精神障がい者保健福祉手帳
対象	肢体(上肢、下肢、体幹)、視覚、聴覚、平行機能、音声言語機能、そしゃく機能、内部機能(心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓)、免疫機能に障がいのある人	知的機能の障がいが発達期(おおむね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にある人	「精神障がい」のために長期にわたり日常生活、社会生活に制限がある人。ただし初診から6か月以上を経過していること。また療育手帳の対象になる知的障がい者は除かれる
等級	1~6級	AもしくはB	1~3級

申請には、医師の診断書が必要になります。まずは、障がい者手帳の申請が可能かどうか主治医に相談してみてください。申請が可能となれば、詳しい内容について相談員が説明させていただきます。

(医療社会事業専門員 板橋 彩子)

## 地域包括支援センターから

広報みやぎ68号でコーディネーター4つの業務、69号では、認知症カフェ「よりどころサロン」、認知症家族交流会についての紹介を行いました。今回は地域での活動の紹介をします。

③「高瀬ガーデンかふえ」…75歳以上高齢者対象で、徒歩で参加できる集会場を利用。いつまでも元気で過ごす事が出来るよう「介護ボランティア」による、軽運動・脳トレ・ゲーム・本の読み聞かせ・舞踊鑑賞など色々と組み入れ、毎週水曜日午前10時から30分までの時間内で、笑顔で実施。参加者は帰りに「じゃあまたね、ばいばい」と手を振って次回の再開を楽しみにしております。

④「フラワースマイル訪問」…半年間毎月1回、独居高齢者(80歳以上)宅を訪問、コロナ禍で閉じこもりにならないよう鉢花を届け、近況などを聞きながら、状況把握を実施。2月で終了、23名中、元気な高齢者は地域のイベントや民生委員、また、介護保険を利用しデイサービス、ひまわり倶楽部などに繋がりました。残り3名は訪問継続、今後家族との連携行い、サービスに繋げていく予定です。



高瀬ガーデン  
かふえの様子

(地域包括支援センター 管理者 佐藤 かおり)

診療科		曜日	月	火	水	木	金
脳神経内科 (新患は予約制)	新患		久永 欣哉	渡辺 靖章	宮澤 康一	松本 有史	高井 良樹 (第1・3)
	再来		永野 功	久永 欣哉	永野 功	久永 欣哉	久永 欣哉
			渡辺 靖章		松本 有史		金子 仁彦 (第2・4)
内科			清野 仁	清野 仁	志澤 聡一郎	清野 仁	清野 仁
			志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	齊藤 秀行	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
			齊藤 秀行	中川 孝			東北大学病院から
循環器内科	午前				加藤 浩	東北大学病院から	
	午後	東北大学病院から (検査日)					
呼吸器内科					東出 直樹		宍倉 裕
消化器内科	午後			県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)		
外科 (総合診療外科)	午前		八巻 孝之	八巻 孝之		八巻 孝之	
	午後			(手術日)		(手術日)	
アレルギー科	午前		堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
小児科	午前		堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
		東北大学病院から		東北大学病院から		東北大学病院から	
整形外科	午後					県立がんセンターから (13:30~15:30)	
形成外科					館 一史	澤村 武 渡部 紀久子 (隔週交替 13:30~15:30)	
皮膚科						東北大学病院から	
脳神経外科			仁村 太郎	安藤 肇史	仁村 太郎	(手術日)	安藤 肇史
				永松 謙一			
歯科			中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
			稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子
専門外来	パーキンソン病外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	頭痛外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	もの忘れ外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ALS外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ふるえ外来		脳神経外科 (予約制)		脳神経外科 (予約制)		脳神経外科 (予約制)
	糖尿病外来					東北大学病院から	
	禁煙外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	女性外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	腎臓病外来	午後			若林病院から (第1・3週)		
	入れ歯外来				泉田 一賢	伊藤 秀美	

## 受診される方へ-----交通のご案内-----

①受付時間は8:30~11:00です。

②土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始  
(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、**急患の方は随時受付いたします。**

**お問い合わせ先 0223-37-1131**

③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2,750円を負担**していただくこととなりますので予めご了承願います。

### ●自動車でおいでの方●

#### ■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線分岐点から南へ20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

#### ■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

### ●交通機関をご利用の方●

#### ■仙台方面から

JR常磐線山下駅下車。タクシーまたは町民巡回バス利用。

(詳しくはお問い合わせください)

